

平成23年度第三次補正予算に係る新規事業採択時評価

1. 事業の概要

事業名	宮古盛岡横断道路（宮古～箱石）	事業区分	一般国道	事業主体	東北地方整備局
起終点	岩手県宮古市藤原～岩手県宮古市箱石	事業延長	約33km		
事業概要 目的	<ul style="list-style-type: none"> ・宮古盛岡横断道路は、宮古市から盛岡市を結ぶ約100kmの地域高規格道路。 ・宮古中央ICと盛岡南ICを連絡し、重要港湾宮古港や三陸地方拠点都市地域と、県都盛岡市や花巻空港、北上中部地方拠点地域とを結ぶ東北地方の広域交通網の骨格をなす路線である。 ・本事業は、三陸沖や宮城県沖等の大規模地震による被害発生時の救助・救援活動の支援や緊急物資の輸送、孤立地域の解消等を支える横断軸の基幹道路となるなど、広域的防災の道路ネットワークの強化に資する事業であり、あわせて東日本大震災からの復興や地域振興、新たなまちづくりの骨格をなす事業である。 				
事業費	約1,080億円	3便益B/C	宮古～盛岡:1.0	宮古～箱石:0.8	

2. 必要性の評価

(1) 課題の整理

評価項目	当該事業地域の課題・上位計画等	
防災・災害時の救助活動等	<p>【i】緊急支援物資の円滑な輸送】 ・被災地（宮古方面）への救援・支援は、緊急支援物資物流拠点（滝沢村）等から横軸（国道106号）により実施 ・国道106号は、通行止めが多数発生（17回/10年）するとともに、防災点検要対策箇所29箇所が存在するなど、安全性・信頼性の確保が課題 ・さらに、大震災後には、交通量が増加し混雑が発生</p>	<p>※東日本大震災からの復興の基本方針 「以下により災害に強い交通・物流網を構築する。 ・三陸縦貫道等の緊急整備や太平洋沿岸と東北縦貫道を繋ぐ横断軸の強化 ・日本海側との連携も含め東北全体のネットワークも考慮したリダンダンシーの確保」</p> <p>※高速道路のあり方検討有識者委員会・緊急提言 「広域的な幹線道路ネットワークについては、地域の孤立化や多重性の欠如など災害面からの弱点を再点検し、その克服に向けて、ミッシングリンクの解消や隘路区間の改良など効果的な手法を選択し、緊急性の高い箇所から重点的に強化を行う必要がある。」</p> <p>※岩手県東日本大震災津波復興計画 復興基本計画 「復興道路として、高規格幹線道路等の幹線道路ネットワークの重点整備（東北横断道釜石秋田線の内陸と三陸沿岸地域を結ぶ横断軸）」</p>
住民生活	<p>【i】高次医療施設への速達性向上】 ・宮古地域の医療圏では心筋梗塞等、対応不可能な疾患があり、95%を盛岡市方面に搬送 ・長い搬送時間や急カーブ箇所が多いため安定した搬送に不安を抱える状況</p>	<p>※東北圏広域地方計画 「東北圏では、病院や診療所が特に中山間地域や沿岸地域で不足しており、人口あたり医師数は全国平均をした回っている。また、広い圏土を反映し、第三次救急医療機関の60分到達圏から外れる地域も多い現状にある。」</p>
地域社会・地域経済等	<p>【i】周辺市町村との連携強化】 ・国道106号は急カーブ箇所が連続し、宮古市～盛岡市間などの連続性が低く、地域間の連携に支障を来す恐れ</p> <p>【ii】産業拠点との連結性向上（分断防止）】 ・大震災からの早期復旧・復興のため、水産業・コネクタ製造業等の基幹産業の早期再生が急務</p>	<p>※高速道路のあり方検討有識者委員会・緊急提言 「人口減少が進む中、甚大な被災を受けた地域の早期復興のためには、各地域が役割分担をしつつ広域的に連携していくことが必要となる。これを促進するため、各地域を縦に繋ぐことによって、地域間の連絡性を高めることができる「復興高速道路」としての三陸沿岸道路など、太平洋沿岸軸の強化が必要」</p>
その他	—	

(2) 事業の必要性

・「東北圏広域地方計画」や「東日本大震災からの復興の基本方針」「岩手県東日本大震災津波復興計画」等の内容と、当該事業の目的や想定される効果の整合が図れており、東日本大震災被災地と内陸との強力な連携を促進することによる被災地の早期復興の支援、平常時も含めた救急搬送圏域の拡大による安全・安心を確保するため、横断軸の隘路箇所を解消し速達性を確保する本事業の実施が必要であるものと評価する。

3. 有効性の評価

(1) ネットワーク上のリンクとしての評価

①主要都市・拠点間の防災機能の向上					
区間		リンクの評価		効果	評価
		現状 (整備前)	(目標) 整備後		
宮古市 (重要港湾)	盛岡市 (県庁所在地)	D	(B) B	・現道は、隘路箇所(幅員5.5m未満)が存在し、近傍の迂回路も脆弱であり災害危険性が高い(Dランク) ・本道路は、宮古市～盛岡市間の最短時間経路となり、災害による通行止めが想定されないことから、当該リンクの災害危険性の低いBランクに改善され、地域の孤立も解消	◎

②ネットワーク全体の防災機能の向上				
リンクの評価			効果	評価
弱点度 (整備前)	弱点度 (整備後)	改善度		
当該リンクが 災害により 遮断され不通 (∞)	0.7	当該リンクが 災害により 遮断され不通 (∞)	当該路線の整備により、宮古市から盛岡市への災害時の不通が解消することにより、ネットワーク全体の防災機能向上	◎

(2) 当該事業としての評価

評価項目	事業による効果	評価
防災・災害時の 救助活動等	【i】救助・救援活動の支援】 ・沿岸部と内陸部(県庁・緊急支援物資物流拠点)を結ぶ横断軸が強化され、宮古市～盛岡市間における幹線道路の信頼性や速達性が向上 ・線形不良、隘路区間49箇所を解消し、緊急の物資輸送を確保 [急カーブ箇所(R<150m) 14箇所→解消]	◎
住民生活	【i】高次医療施設への速達性向上】 ・第三次医療施設である岩手医科大学付属病院(盛岡市)への所要時間が短縮される [宮古市～岩手医科大学付属病院 約110分→約95分(約15分短縮)]	○
地域経済・ 地域社会等	【i】周辺市町村との連携強化】 ・盛岡市～宮古市の連絡速度が49km/hから60km/h以上に改善される。 【ii】産業拠点との連結性向上(分断防止)】 ・急カーブ箇所の回避により、走行性・安全性が向上 ・宮古港から盛岡市卸売市場までや、宮古市(コネクタ工場)から岩手内陸方面までの所要時間が短縮、連携強化・連絡性向上が図られる	◎
その他	—	

(3) 事業の有効性

・当該事業の実施により、ネットワーク上のリンクの評価がDランク→Bランクに改善し、防災機能が強化される。 ・さらに、速達性が向上し、「くしの歯」作戦に象徴される太平洋沿岸と内陸部を結ぶ横断軸の強化が図られ、東北地方全体のリダンダンシーの向上につながるなど、有効性の高い事業と評価する。

4. 事業実施環境・第三者意見

事業実施環境	<ul style="list-style-type: none">・道路が通る概ねのルートを発表し、地域の意見を聞きながら、概ねのルート及びIC位置を確定した。・岩手県をはじめ関係市町村は、当該道路を復興道路として位置付け、重点的な予算配分と早期全線整備を図ることを要望している。・2車線整備のため法アセス、条例アセスの基準に該当しないため、これらに基づくアセスは実施しない。
岩手県	<ul style="list-style-type: none">・当該区間の新規事業化と事業推進を強く希望します。
社会資本整備審議会 道路分科会 事業評価部会	「新規事業化については妥当である。」との意見を頂いた。
社会資本整備審議会 地方小委員会	「新規事業化については妥当である。」との意見を頂いた。

5. 対応方針

当該事業により、沿岸部と内陸部(県庁・緊急支援物資物流拠点)を結ぶ横断軸が強化され、宮古市～盛岡市間における幹線道路の信頼性や速達性が向上することや、緊急輸送等の円滑化が可能となり、迅速な復旧活動や被災地域の復興を支援すること、さらに、ミッシングリンクの解消や各地域の広域的な連携に貢献等の効果が認められることから、防災機能の評価結果も踏まえ、当該事業の必要性・有効性は高いと判断できる。
以上より、本事業の新規事業化は妥当である。